

令和5年度第2回サービス計画推進委員会の意見と取組状況



●総合評価

- ・来館者数、電子図書館の閲覧回数など数的指標の状況は順調と言える。
- ・サービスの種類も実績もかなりのレベルに到達しており、他の図書館に情報共有すべき時期に来ている。
- ・オーテピア高知図書館のサービスにおける蓄積を、分館・分室や市町村図書館にどのようにつないでいくかが次の課題。
- ・報道や第三者機関の評価などインパクトのある媒体を活用し、首長や議員、業界へのアピールを積極的に行うことで、図書館の存在価値を高めていくべき。

総合的な意見

(R5. 10. 13令和5年度第2回サービス計画推進委員会より)

オーテピア高知図書館の活動成果等の共有について

- 機関紙、学会誌での報告等、オーテピア高知図書館のスキルと経験の積み上げを共有すべき。自分だけでなく専門職の資質向上につながる。活動成果を有用な形で残してほしい。特に、アウトリーチ担当は高知モデルとして他の図書館の参考になるので、実務報告のような形でいいので、図書館界に対する情報発信をぜひ行ってほしい。

オーテピアの防災について

- オーテピアの備蓄、非常電源など、災害時の機能について、外部に情報を伝えるべきだと思った。利用者や地域住民に非常に大きな安心感を与えられると思う。

パスファインダーの更新について

- 最新の情報を提供できることに意義があるので、適宜新しくしておいてほしい。

広報について

- サービスの進展状況等を広報できないか。進展状況が外からも見るとよいのではないか。

取組状況

- 事例発表「今だからこそ、こんな図書館が欲しい！：図書館サービス計画が果たす役割とこれから」（第108回全国図書館大会群馬大会）、「オーテピアは進化型図書館の夢を見るかーオーテピア高知図書館での取組みと課題」（令和4年度全国公共図書館研究集会）、「日々、触れることで磨かれるーオーテピア高知図書館の事例ー」（第19回レファレンス協同データベース事業フォーラム）など。
- 寄稿『情報の科学と技術』73巻9号に『三兎を追ってーオーテピア高知図書館情報システム構築記』、『図書館界』Vol. 74-6『オーテピア高知図書館での電子資料提供の取組みと課題』など。

- 令和6年3月にオーテピア高知図書館業務継続計画（BCP）を策定。その中で「オーテピアの防災について」として、防災設備や備蓄用食糧等について記載。今後、公開方法について検討する。
- 商店主が参加する地元商店街主催の緊急避難訓練について、オーテピアを避難場所とする訓練に協力し、併せて緊急時のオーテピアの施設設備や防災備蓄倉庫などの説明を行った。

- 各サービス担当によるパスファインダー作成や更新等の進捗状況を共有し、そのサポートをするために、情報リテラシー向上支援担当の中にパスファインダー担当を置いた。

- サービス指標のひとつである来館者数については100万人ごとに積極的な広報を行っている。その他のサービス進展状況の伝え方について今後検討する。

各サービスについての意見

(R5. 10. 13令和5年度第2回サービス計画推進委員会より)

ビジネス支援サービスについて

- ビジネス支援の事例を集め、経済的な効果を検証すべき。相談者が気楽に相談ができる職員を養成し、お互いの信頼関係の中でどういう効果があったのか聞いても良いのでは。
- 商工団体関係者、県市の首長や議員に、支援によりプラスになった事例を伝えることで図書館の存在価値が上がっていく。

多文化サービスについて

- まずは、在日外国人に、どんな雑誌が人気があってどのような層の方に読まれているか、どのようなものを置いたらよいかなど具体的に聞き取りをしてみたら良いと思う。

市町村図書館等の支援について

- オープンピア高知図書館のビジネス支援や健康安心・防災情報サービスのノウハウを、市民図書館でいえば分館・分室に、県立図書館は高知県内の高知市以外の市町村にどのようにつないでいくかが次の課題。
- 市町村図書館については、外国語書の仕入れルートを紹介するなど、市町村図書館が取り組みを始めるときに支援ができる実力を蓄えておいてほしい。

高知市全域サービスについて

- 市として力を入れている学校に、学校図書館との連携の中でより手厚いサポートを行ってはどうか。それがモデルとなり、他の学校からも手が挙がるのが期待できる。

取組状況

- 事業者等関係機関への訪問に加え、市役所で出前図書館やレファレンス・サービスのPRを行ったことにより、顔の見える関係が徐々に増えている。
- 今後も、関係機関へのビジネス支援サービスのPRを積極的に行い、成果がフィードバックされる関係性づくりにつなげる。
- アウトリーチによって掲載につながった高知県中小企業団体中央会機関紙の当館紹介記事等は、図書館の成果として市長等にも共有している。引き続き図書館の有用性の周知に取り組んでいく。

- 常設展示「高知で「くらす」×「はたらく」」内に図書館に置いてほしい本（外国語を含む）を記入できるアンケート用紙の配布を開始した。アンケート用紙は県市国際交流員の国の言語をすべて取り入れ、ベトナム語他6か国語分を作成した。3月から配布・回収している。
- 連携事業の機会をとらえ、関連団体や国際交流員等にも聞き取りを行う。

- 市町村図書館等に対しては、物的（資料提供）及び人的（巡回訪問や研修等）支援を両輪としながら、図書館が所在する各地域の課題に対応したサービスの創出・充実に向けた働きかけを行っている。
- その際、各館のニーズに応じて、イベントの開催手法の伝達や関係機関・団体の紹介など、当館のサービス実践のノウハウを生かすこととしている。具体的には、多文化サービスに関して、市町村立図書館等での多文化理解イベント実施にあたり関係機関を紹介したほか、求めに応じて外国語図書の仕入れルートなどの情報提供を行った。
- 本委員会で提案のあった、オープンピア高知図書館が作成したパスファインダーのフォームの提供については、一部改訂作業中のため準備中の状況である。

- 分館分室カルテの対象地区にある土佐山学舎（市立義務教育学校）で開催された教育研究発表会に参加し、学校が掲げる教育目標の理解や特色ある取組の体験をした。これらを踏まえ、学校訪問等によりニーズの把握を行い、必要なサービスを提案していく。